



福岡女学院大学公開講演会

そうだったのか、イエスの言葉!

— 福音書の新しい日本語訳、新しい読み方 —

講師 **山浦 玄嗣** (岩手県大船渡市開業医・ケセン語研究家)

骨身を揺さぶり、 魂の底に響く故郷の言葉の力とは...

岩手県大船渡の山浦氏は、新約聖書を地元の里言葉「ケセン語」に訳し、全国から反響を呼んだことで知られている。昨年、自らも被災した氏は各地の方言を駆使した四福音書『ガラリヤのイエシュー』を新たに刊行した。今、このユニークな労作に至った道程をたどり、翻訳の作業であらわになった標準語・共通語の問題点、イエスの使信と従来の和訳聖書の紛らわしさ、地方文化と方言の復権に対する思いなどを熱く論じ、3.11の災禍を引き受けて生きる希望のありかを語る。



山浦 玄嗣 やまうら はるつく

1940年、東京生まれ。生後間もなく母方の故郷岩手県釜石に移住し、その後気仙郡越喜来村に疎開。東北大学医学部、同大学大学院(外科学専攻)卒業後、同大学抗酸菌病研究所助教授。1986年故郷の大船渡市盛町で山浦医院を開業、現在に至る。医師としての仕事の傍ら、気仙地方の方言をケセン語として研究。『ケセン語入門』(1987年)、『ケセン語大辞典』(2000年)などを著した後、『ケセン語訳新約聖書・マタイによる福音書/マルコによる福音書/ルカによる福音書/ヨハネによる福音書』(2002~04年)を完成。他に『父さんの宝物』(2003年)、『ケセン語の世界』(2007年)、『ガラリヤのイエシュー』(2011年)、『イエスの言葉ケセン語訳』(2011年)など多数。カトリック大船渡教会信徒。



『ガラリヤのイエシュー』

イエスの時代を幕末に置き換え、登場人物をその職業や立場に相応しい全国の里言葉で語らせた「演劇的な」(池澤夏樹)四福音書。ギリシャ語原典の語意を鋭く解釈し、一般社会にはほとんど通用しない聖書特有の用語を避けた、語りの厚い伝統のある陸奥(みちのく)ならではの訳業といえる。井上ひさしの理想一難しいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことを面白く、面白いことを真面目に、真面目なことを愉快地に、そして愉快なことはあくまで愉快に一を想起させる臨場感あふれる〈よきたよりの書〉。

2012年10月20日(土) 14:00 開演(13:30 開場)

- 会場：福岡女学院大学 421 教室(4号館2階) **入場無料**
- 主催：福岡女学院大学
- 後援：福岡市、福岡市南区、福岡市教育委員会、春日市、春日市教育委員会、大野城市、大野城市教育委員会
- 問合せ：福岡女学院大学 本部・大学総務課
〒811-1313 福岡市南区日佐3丁目42-1 TEL.092-575-2971 FAX.092-575-4456
メール d_somu@fukujo.ac.jp ホームページ <http://www2.fukujo.ac.jp/university/>

